

大学名	高知大学		
University	Kochi University		
学部/研究科	教育研究部		
Faculty/Department	Research and Education Faculty		
研究指導者	佐藤 周之	職名	准教授
Research Advisor	SATO SHUSHI	Position	Associate Professor
帰国留学生	チェ マンクォン		
Former International Student	Choi Man-kwon		
派遣期間	2014年 9月 16日 ~ 2014年 9月 25日 (10日間)		
Period of Stay	September 16, 2014 - September 25, 2014		

<帰国留学生プロフィール/Profile>

国籍	大韓民国
Nationality	Republic of Korea
所属機関	国立 慶尚大学校
Affiliation	Gyeongsang National University
現在の職名	研究員
Position	Researcher
研究分野	農業土木学
Major Field	Agricultural Engineering



帰国留学生との研究打合せ /  
Research discussion with former international student

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

<b>①研究指導概要 / Outline of Research Guidance</b>
<p>本事業では、帰国留学生に対しての研究指導に加え、一般学生や関連する分野の大学院生・研究者とともに、授業やセミナーを通して、教育・研究交流活動の活発化を図ることを目的としている。直接的な研究内容として、派遣者の専門でもあるインフラの維持管理を中心に、現段階までの知見等最新の情報を踏まえた意見交換を実施する。</p> <p>社会基盤の管理保全に必要な機能診断の考え方や要素技術について、コンクリートを軸に指導する。とくに、機能診断では点検の階層化が重要であるとともに、機能低下の原因を正確に把握しなければならない。そこで、コンクリートの劣化をはじめとする変状の現象論から原因、現地調査手法、結果の分析方法について、特別講義等を実施するとともに、現地調査方法の実習と演習を行う。最後に、関連する研究者との意見交換を実施する。</p>
<b>②研究指導の成果 / Results of Research Guidance</b>
<p>研究指導の成果として、まず帰国留学生とこれまで継続して進めてきている共同研究の成果の公開方法について議論を行い、現段階までのデータの公表方法ならびに時期を決定することができた。また、関連する研究分野の最新の動向について触れ、今後の研究展開との方針の整合性について確認を行った。</p> <p>一方、帰国留学生の研究の新たな展開のため、現地公的機関二か所を訪問し、機関長ならびに現場技術者から資料・情報の収集を行うとともに、現地試験の許可を頂いた。そのうえで、適切な現場を視察・決定し、新規機材によるデータ収集を行った。取得したデータも用いながら、統計的処理についての指導ならびにデータの分析を行い、新たな研究展開へと繋がる素地を作ることができた。</p>
<b>③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc.</b>
<p>教育交流の面では、学部学生(2年生対象)への特別講義を開催し、人口減少や地域の過疎高齢化、労働人口の将来的な現象といった全体的な日本の課題に触れ、続いて専門分野と密接にかかわるインフラ整備事情、インフラの主たる建設材料となるコンクリートの有する課題および将来展望について概説した。また、大学間交流協定の実施責任者と面談をし、今後の交流協定活性化には教育交流・研究交流の両面からの取り組みを増やしていくことで一致した認識を得ることができ、具体的な教育交流として学生の短期派遣・受入に必要な外部予算獲得の具体について意見交換を行った。その結果、今年度内に二件の予算申請を試みることに、活動予定としては高知大学への短期学生受け入れと、次年度の共同セミナー開催を目指すこととした。</p> <p>研究交流の面では、関連する農業工学分野の研究者ならびに大学院生に対して、高知大学農学部流域環境工学コースの教育面での特色であるJABEEの取り組みを説明するとともに、留学事情について説明をし、国際的に活躍する人材育成についての議論を行った。また、ゼミに参加し、個別の研究に関する意見交換を行った。さらに、帰国留学生、関連分野の教員・大学院生を対象に開催したセミナーでは、コンクリートという建設材料とインフラストラクチャーの関連性を話題の中心として、現在我が国のインフラストラクチャーが直面している様々な課題を紹介した。日本が若干先行しているが、とくにコンクリートの老朽化が両国の共通したキーワードになることを示しながら、わが国で過去10年来取り組まれている性能設計の思想の導入や現在も進行している各種指針、設計基準の改変について述べ、性能照査に必要な研究課題を概説した。この話題提供を踏まえ、活発な意見交換を実施することができた。</p>

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

執筆中の研究論文のブラッシュアップを終え、投稿の目途が立った。また、二か所の現地公的機関との連携の基礎ができ、実験フィールドの提供を頂くことができた。さらに、現地実験方法および取得したデータの統計処理方法について学び、新規取得データの分析による新たな研究の展開を定めることができた。

②今後の計画 / Further Research Plan

今回、新たな研究展開に必要な研究のフィールドを二か所確保することができたことから、至急実験計画を作成し、当該機関の担当者と実行予定を作成する。また、佐藤准教授が11月にも再訪する予定であることから、さらに詳細な現地試験を実施し、研究の進展を図る予定である。

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

大学院時代の指導教員からじっくりと腰を据えた指導を得られる良い機会となった。可能であれば、例えば日本の指導教員の学生を一名でも同道できるようにすれば、研究交流だけでなく学生交流も同時に実施できるなど、効果の幅がさらに広がると思った。



学部学生への講義の様子  
Scenery on lecture against undergraduate student



韓国農漁村公社における聞き取り調査  
Hearing investigation at Korea Rural Community Corporation